様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22年　5月　1日現在

研究種目：　基盤研究(B)
研究期間：　2007　～　2009
課題番号：　19320035
研究課題名（和文）　中世宗教テクスト体系の復原的研究ー真福寺聖教典籍の再構築
研究課題名（英文）　Study for restoring system of religious text in medieval Japan : Re-construction of system of sacred scriptures in Shimpuku-ji Temple.

研究代表者
阿部　泰郎（ABE YASURO）
名古屋大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60193009

研究成果の概要（和文）：
日本中世の宗教文化遺産の豊かな世界を、宗教テクストという理論的概念を用いて、その生成展開の全体像を体系的に解明することを目指した。その主な対象を真福寺大須文庫の聖教典籍とし、その保存整理作業に取り組みつつ、特に断簡状態で伝来したテクスト群の復原システムと方法論を確立し、今後の全面的復原作業の為のデータベースを完成させた。この過程で複数の重要な中世宗教文献と史料が復原され、学界に報告し提供された。

研究成果の概要（英文）：
I made an attempt to make a systematic grasp of medieval Japan rich in heritages of religious cultures and the whole picture of the development of those cultures by the use of the theoretical concept of a religious text. Focusing on the writings of sacred scriptures kept in the Osu Library in Shimpukuji Temple as the main text of my research, I engaged in preserving and rearranging those writings, established a certain system and method of recovering texts introduced into Japan in fragmentary conditions and completed in a computer a structured set of data, especially to be used for total recovery work in the future.　Thus in this process, several pieces of important literature and archives from medieval religions were recovered, reported to and accepted by an academic association.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2008年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総　計	8,100,000	2,430,000	10,530,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学　・　日本文学
キーワード：宗教テクスト、寺院資料、聖教、真福寺、断簡復原、栄西、東大寺東南院、頼心

１．研究開始当初の背景

本研究は、その前提として平成１２年より１８年にかけて継続して行われた基盤研究（Ｂ）「中世寺院における知的体系の研究」（研究代表者・阿部泰郎）の成果を踏まえ、その主たる調査対象となった真福寺大須文庫の聖教典籍の断簡（フラグメント）化して伝存した資料について本格的な記録と資料化を試み、その本来のテクストを復元することを通じて中世の宗教テクスト体系を復原するという目的の許に実施されたものである。その方法論の構築および調査を通じての実践的探究として、科研費萌芽研究により平成１８年より２０年にかけて行われた「中世宗教テクストの総合的研究」（研究代表者・阿部泰郎）があり、またテクスト学としての理論的探究と人文学諸分野の研究との連携をはかるプロジェクトとして、研究推進者として参加した名古屋大学文学研究科によるグローバルＣＯＥプログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」（拠点リーダー・佐藤彰一）がある。また、中世宗教テクストの重要な側面である儀礼テクストに関する、伝承される仏教儀礼のフィールドと文献資料との相関的研究として国立歴史民俗博物館の公募共同研究「中世における儀礼テクストの綜合的研究」（平成 20 年～22 年）が本研究と緊密な関連を保ちつつ進行中であり、その連携の成果として、本研究を母胎としたより複合領域性の高い総合的な宗教テクスト学の構築が目指された。

２．研究の目的

本研究の課題は、日本における（宗教テクスト学）の構築である。その目標に向かって、三つの方向からのアプローチを試みた。第一に、基盤となる“宗教テクスト”の実相と実態を、宗教領域の諸位相に伝存するテクスト群について一次資料から直接に検証することである。そのためには、原資料群について悉皆調査を行い、その体系および構造と機能とを、全体像を把握した上で解明するフィールドワークが必要となる。

第二には、それら歴史的に形成されてきた宗教テクストの場やそれを構成する諸テクストについて、その伝来や位相を解明するために、「目録」に代表されるメターテクストの解読分析を行うことが必要である。更に、その分析にもとづいて宗教テクストの体系が生成する座標を認識し、そこに各テクストが如何に布置されるかを検証する復原的研究が必然的に要請される。第三には、宗教テクストがその総体として形成する世界範疇についての探究である。通時的には、中世を中心に古代から現在まで、共時的には、仏教を中心に神道、修験道、民俗宗教他の諸宗教とその複合領域、および法会祭礼や民俗祭祀など儀礼と芸能の身体的側面、また尊像曼荼羅や絵伝説話画など図像造型のイメーヂ的側面を統合的にテクストとして把える必要がある。つまり、時間（歴史的な時系列）と空間（知覚文化の系列）の双方によるコンテクストの所産としてテクストを解釈するのである。こうした諸位相における宗教テクストの様態および動態を、既成の学問分野（文学、歴史学、宗教学、民俗学、美術史学、芸能学等）を超えて共同して探究する、あたらしい学術創成の端緒になることが期待される。

３．研究の方法

本研究の主たる対象は、後述するように真福寺大須文庫をはじめとする中世真言密教寺院の宗教テクスト体系であり、その悉皆調査を進めるために書誌目録を作成し、また古目録を用いてそれが内包するテクスト体系の復原を試みることが基盤となる。更にはそれらの諸情報や知見を綜合して、断片化し散佚したテクスト（断簡）をひとつのテクストとして復元し、本来あるべき体系の許に帰属させると同時に、その意味やメッセージを読み解き、諸座標の上に位置付けるという解釈学的作業を行うための手順を、大学院教育とも連動させて体系化・マニュアル化している。それは前述した大きな目標としての研究課題の実践として位置付けられる。

４．研究成果

調査を行った結果としてのデータベースに入力を了えたのはいまだ全体の一部（およそ二～三％）であり、仮整理分でも三割から四割程度を処理したに過ぎないが、その過程で経験的に感取された真福寺聖教の様相についての記述を試みよう。それによって、中世宗教テクストの多様な形態と内容、聖教の書物としての形態と様式、素材としての料紙とその加工方法、書写形態（界線・行取り・訓点など）の基本的分類が、まずその装丁において聖教の重要なカテゴリーと対応していることが認められる（枡形粘葉―諸尊法次第・法則、枡形縦長折本―諸尊次第・尊法集成・口決、半切巻子本―大事口伝・口決・聞書、大型巻子本―尊法次第・法則・講式・図像集・灌頂法則・記録、大型仮綴冊子―南都系（および天台）談義聞書・抄物・教相書、粘葉―真言教相書・神祇書、中型仮綴冊子―唱導書・類聚・名目等、横帳冊子―神祇書・真言談義書・聞書・類聚・表白）。これは、あくまでおおよその傾向として認められるものであり、例外は少なからず認められるが、一紙・一丁・一葉の断片でも、それが属す聖教のカテゴリーや性格は、本文の内容を充分解さなくとも、経験的に判断し分類すること

が可能である。これは、中世の聖教が高度に規格化され、底本（祖本）としたテクストに忠実な写本として、伝統的に形成された様式を受けついで、統一した形式の許に再生産されていたシステムがもたらす結果である。

その写本は、法流の継承―伝授（例：鎌倉中期の真言宗学僧として醍醐寺に学び根来寺で活動した頼瑜の真言教相注釈書「愚草・注疏」類にその典型がみられる）の過程の一部であり、書写された聖教は伝受において読まれながら付訓・加点される媒体となる。そうした相承―伝受に用いないテクストは資質および装丁や書写ともに簡略で粗雑なものになる。また、これにより、実用的／儀礼的なテクストの性格を区別する指標ともなる。

寺院経蔵の中核を成す聖教以外にも、さまざまなテクストが含まれている。経典（版経）、灌頂記録（結縁衆名帳）、寺僧交名（法会出仕交名）など記録文書の断片、古浄瑠璃正本（『いけにへ』）の断片、参籠札（西国三十三所等）、書状（東南院伝来聖教の紙背文書）など、近世を通じて、聖教体系の間に紛れ込み混入した、世俗との交流接点を伺わせる堆積が、地層のなかの化石のように断簡のなかに含まれているのである。

以下、断簡整理に関連して本科研の一環として行われた調査研究プロジェクトを示す。

①栄西著作聖教復原研究

研究協力者末木文美士（日文研・教授）をリーダーとする研究チーム（牧野淳司、米田真理子、和田有希子、高柳さつき）により、パイロット調査により断簡中から取り出された『改偏教主決』（建久九年写本、東大寺東南院伝来聖教、中川成身院―高雄山で写された）等の一連の栄西による天台密教の論争書（批判に応えた反論・弁明書という性格）の研究を行った。その詳細と復原本文は、本報告書に掲載されるが、成果の一部は、名古屋大学グローバルＣＯＥプログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」第４回国際研究集会「日本における宗教テクストの諸位相と統辞法」プレカンファレンス（二〇〇八年七月）で口頭報告を行い、プロシーディングに発表されている（二〇〇八年十二月）。

②唱導文献聖教復原研究

阿部を中心とする研究チーム（国立歴史民俗博物館共同研究「中世における儀礼テクストの綜合的研究―田中穣旧蔵『転法輪鈔』を中心に」：松尾恒一、牧野淳司、筒井早苗、阿部美香、小島裕子、近本謙介と連携する）により、断簡中から見出された澄憲草『安極玉泉集』巻二・巻五、『弁暁草』維摩会表白、『心性罪福因縁集』中巻、『日本霊異記』中巻冒頭などを検討した。その成果の一部は、真福寺善本叢刊第二期第四巻『中世唱導資料集二』総説（阿部）・解題（阿部・牧野）に反映されている。

③寺院史料復原研究

共同研究者稲葉伸道氏（名古屋大学・教授）による研究チーム（福島金治・牧野淳司・三好俊徳）により、『東大寺具書（真言宗本所相論訴訟資料）』等の断簡を発見し、東大寺東南院伝来聖教史料より、頼心を中心とする聖教（目録）、記録他を研究した。成果は、真福寺善本叢刊第二期第十巻『東大寺本末相論史料』解題（稲葉）および本書「真福寺所蔵頼心書写聖教についての基礎的検討」（三好）に反映されている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）

①阿部泰郎、「巡礼記としての『一遍聖絵』」、『巡礼記研究』第 5 号、ｐ33－ｐ46、2009 年、査読有

②阿部泰郎、「芸能としての唱導―説教師という芸能者たち」、『国文学　解釈と鑑賞』第 74 巻 10 号、ｐ30－ｐ41、2009 年、査読無

③阿部泰郎、「聖徳太子絵伝の世界像―平安期聖徳太子信仰のテクスト布置」、『日本語テクストの歴史的軌跡』（グローバル COE プログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」第８回国際研究集会報告書）、ｐ85－ｐ92、2009 年、査読無

④阿部泰郎、「魂の書物の発見をめざして―寺院資料調査の現場から」、『日本思想史学』第 21 号、ｐ49－ｐ55、2009 年、査読有

⑤阿部泰郎、「（寛信自筆）『宝物目録』」『勧修寺論輯』第５号、ｐ1－ｐ3、2009 年、査読無

⑥稲葉伸道、「大須観音宝生院所蔵「庭儀灌頂図」について」、『愛知県史研究』13 号、ｐ40－ｐ42、2009 年、査読無

⑦稲葉伸道、「弘安寺社興行政策の源流について：鎌倉時代前半期における王朝の寺社政策の展開」、『名古屋大学文学部研究論集史学』55 号、ｐ81－ｐ97、2009 年、査読無

⑧福島金治、「中世後期南九州の村と町--『庄内地理志』を中心に」、『地方史研究』59（5）、ｐ19－ｐ32、2009 年、査読有

⑨阿部泰郎、「中世宗教テクストの世界像」、『日本文学』第５８巻７号、ｐ2－ｐ15、2008 年、査読有

⑩阿部泰郎、「文観著作聖教の再発見」、『比較人文学研究年報』第７号、ｐ117－ｐ132、2008 年、査読有

⑪阿部泰郎、「勧修寺本『正法輪蔵』翻刻と解題」、『勧修寺論輯』第三・四号併合、ｐ45－ｐ61、2008 年、査読無

⑫阿部泰郎、「中世宗教思想文献の研究（三）―架蔵『輪王灌頂口伝』翻刻と解題」、『名古

屋大学文学部研究論集』55号、p97－p113、2008年、査読無
⑬福島金治、「中世美濃龍徳寺の売券と在地社会--買主未記載の売券を中心に」、『愛知学院大学文学部紀要』38号、p273－p308、2008年、査読無
⑭牧野淳司、「延慶本『平家物語』弘法大師宗論説話の生成」、『国語と国文学』85号(11)、p78－p88、2008年、査読有
⑮阿部泰郎、「仏教文学（千号記念・国語国文学会の展望・中世）」、『国語と国文学』第84巻5号、p112－p119、2007年、査読有
⑯阿部泰郎、「中世における〈神〉の発見」、『日本宗教文化史研究』第11巻1号、p29－p36、2007年、査読有
⑰牧野淳司、「延慶本『平家物語』と寺社の訴訟文書--寺院における物語の生成と変容」、『中世文学』52号、p82－p93、2007年、査読有

〔学会発表〕（計7件）
①阿部泰郎、「霊地を創る太子―四天王寺をめぐる太子宗教テクスト」、名古屋大学・ストラスブール大学共催「文化創造と知の発信としての図像解釈」、2009年9月8日、アルザス・欧州日本学研究センター
②阿部泰郎、「聖徳太子絵伝の世界像―平安期における太子信仰のテクスト複合とその布置」、グローバルCOEプログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」第八回国際研究集会「日本語テクストの歴史的軌跡」、2009年9月5日、プラハ・カレル大学
③阿部泰郎、「中世宗教テクスト体系の範疇」、日本宗教文化史学会第十三回大会、2009年6月21日、同志社大学
④阿部泰郎、「西行における〈神〉の発見」（講演）西行学会創設第一回大会、2008年8月26日、國學院大學
⑤阿部泰郎、「宗教図像テクスト複合としての聖徳太子絵伝」学習院大学文学部「中世掛幅画研究会」・パリ第七大学共催研究集会「日本中世の信仰と造型」、2008年3月27日、パリ・パリ第七大学
⑥阿部泰郎、「観著作聖教の再発見―三尊合行法聖教の体系」、名古屋大学文学研究科GP「人文学フィールドワーカー養成プログラム」、ロンドン大学SOAS日本宗教研究センター共催ワークショップ「日本宗教のフィールドワーク」特別セミナー、2008年3月18日、ロンドン・ロンドン大学SOAS
⑦阿部泰郎、「書かれたものとしての神道」、コロンビア大学日本宗教研究所シンポジウム「中世神道」、2007年4月27日、ニューヨーク・コロンビア大学

〔図書〕（計5件）
①山崎誠、塙書房、『江都督納言願文集注解』、2010年、943ページ
②責任編集：阿部泰郎・山崎誠、担当：稲葉伸道・牧野淳司、臨川書店、『東大寺本末相論史料』（真福寺善本叢刊第二期第十巻）、2008年、795ページ
③責任編集：阿部泰郎・山崎誠、担当：小峯和明、福島金治、阿部泰郎、川崎剛志、牧野淳司、臨川書店、『中世唱導資料集二』（真福寺善本叢刊第二期第四巻）、2008年、414ページ
④編集・総括報告：阿部泰郎、名古屋大学文学研究科、『日本における宗教テクストの諸位相と統辞法』（グローバルCOEプログラム「テクスト布置の解釈学的研究と教育」第4回国際研究集会報告書）、2008年、360ページ
⑤責任編集：阿部泰郎・山崎誠、担当：山崎誠、臨川書店、『性霊集注』（真福寺善本叢刊第二期第十二巻）、2007年、902ページ

6．研究組織
(1)研究代表者
阿部　泰郎（ABE YASURO）
名古屋大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60193009

(2)研究分担者
稲葉　伸道（INABA NOBUMICHI）
名古屋大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70135276

(3)連携研究者
山崎　誠（YAMAZAKI MAKOTO）
国文学研究資料館・教授
研究者番号：30182489

福島　金治（FUKUSHIMA KANEHARU）
愛知学院大学・文学部・教授
研究者番号：70319177

牧野　淳司（MAKINO ATSUSHI）
明治大学・文学部・専任講師
研究者番号：10453961